

総合的な学習研究部研修会

令和4年8月4日(木)

第2回研修会

【講話】 「総合的な学習の過程を大切にした総合的な学習の時間の授業」

浜松市教育委員会指導課 河合祥吾 指導主事

○指導主事講話より

総合的な学習の時間だけに当てはまる事ではないが、付けるべき力、育成すべき資質・能力が明確にされていれば、その資質・能力が育つように意図的・計画的に指導ができる。その資質・能力が付いたかどうかを「何で評価するのか」、「どのように評価するのか」が評価規準として定まっていれば、一人一人への支援がより明確になる。

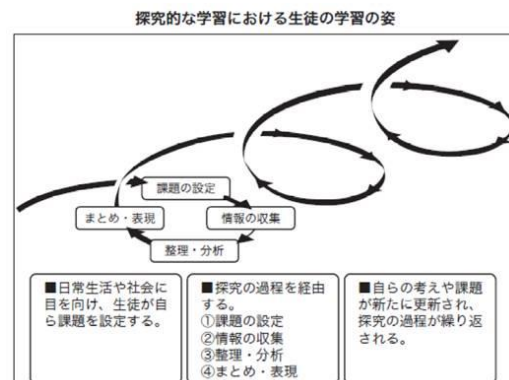
目標と指導と評価の一体化を目指し、総合的な学習の時間における資質・能力を身に付けさせるために、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながる。

総合的な学習の時間における「深い学び」とはどのようなイメージか。学習指導要領解説総合的な学習編に特にポイントとなる2点が明記されている。

1点目は、探究的な学習の過程を一層重視し、学習過程の質的向上を図ること、つまり探究サイクルを回すということ。2点目は学習の過程において、子供たちが手応えをつかみ前向きで好ましい感覚を得るということだ。探究的な学習の過程を一層重視するということは、まとめ・表現から新たな課題が生まれ、学校の実践がスパイラルになって高まっていくようなサイクルを充実させるということである。

そして、総合的な学習の時間における探究的な学習を通して実感した達成感や手応えは、次の学習意欲へとつながっていくことが予想される。子供たちが活動や体験を通して習得した知識・技能や学び方は、実社会や実生活で使えるものになっていくと考えられる。

子供たちの姿をイメージすることが目標に繋がり、評価規準になっていく。そのためにも



のような指導をしていくか考えていくことで、目標と指導と評価の一体化につながり、総合的な学習の時間における深い学びの実践になっていく。

【講座】 「話す力を磨くことは 生きる力を磨くこと」

フリーアナウンサー 原田裕見子氏

○原田氏講話より

IT化や多様性社会が進む中、対面で自分の考えや思いを的確に伝える力が益々求められるようになってきた。声は相手に「伝える」という面でとても大切なものだということを改めて考えることができた。

今回は様々な場面で活用することができる「一瞬で好感度の高い声」を作る紹介していただいた。

- ・頬骨を上にあげる感じの笑顔で話すとトーンが上がる。
- ・電話対応のときには「ながら」で話さない。
- ・最初から笑声(えごえ)で話す。
- ・語尾伸ばしは印象が悪いため、語尾は短くすっきりさせる。

原田裕見子氏は、ふるさと浜松のこどもたちに「伝え合う大切さ・楽しさを知ってほしい」という想いで出張授業を行っている。

